45.			885# AT CT	↑ 100 E /E FE	2022/5	125.314.171		— , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,						
	<u>本高等専</u>	門字校	開講年度	令和05年度(	2023年度)	授業科	日  リベ	ラルアーツ実践II						
科目基礎	門育報	T			Tues ()	40	1 > 15							
科目番号授業形態					科目区分		<u>/ 必修</u>							
授業形態 開設学科					単位の種別と単位 対象学年		単位: 1	<u>1</u>						
開設子科		後期	なステムエ子科		」 対象子中	2		_						
教科書/教材	<del></del>	1女州			週时间数	2								
担当教員	[2]													
到達目標			ЦР											
②社会協働 ができるのは、 ののでは、 のので	かグルーフ ま考(クリラ がいた文章作 が能力(し ら。	『活動・ディ Fィカル・ミ ■成ができる リテラシー・	・ンキング)と分析的 。	かられるコミュニグ 対思考について理解 に関する自分の特別	アーションスキルの 解し,自分の問題に 生の経年的変化を把	基礎を身に着 置き換えて応 握することか	けたうえて 加すること でき、その	、自分の特性を発揮すること ができる。また、そのような 開発に向けて目標を立てるこ る。						
ルーブリ	リック													
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到	未到達レベルの目安						
評価項目① の統合	複数の分野	<b>がに渡る知</b> 識	∜ │に渡る知識を総役	一般科目・専門科目の複数の分野 に渡る知識を総合し、問題解決に 向けた方策を検討することができ る。		一般科目・専門科目の複数の分野 に渡る知識を組み合わせることが できる。		一般科目・専門科目の複数の分野 に渡る知識を組み合わせることが できない。						
評価項目②コミュニケーションス キルの基礎			社会協働やグループ活動・ディスカッションで求められるコミュニケーションスキルの基礎を身に着けたうえで、自分の特性を発揮することができる。		カッションで求る	社会協働やグループ活動・ディス カッションで求められるコミュニ ケーションスキルの基礎を理解す ることができる。		社会協働やグループ活動・ディス カッションで求められるコミュニ ケーションスキルの基礎を理解す ることができない。						
評価項目③批判的思考と分析的思 考			批判的思考(クリティカル・シンキング)と分析的思考について理解し、自分の問題に置き換えて応用することができる。また、そのような思考に基づいた文章作成ができる。		キング) と分析   解することがで	クリティカル・シン 析的思考について理 できる。また、その 基づいた文章作成が		批判的思考(クリティカル・シンキング)と分析的思考について理解することができない。						
評価項目④分野横断的能力の把握			分野横断的能力(リテラシー・コンピテンシー)に関する自分の特性の経年的変化を把握することができ、その開発に向けて目標を立てることができる。		分野横断的能力(リテラシー・コンピテンシー)に関する自分の特性の経年的変化を把握することができる。		の特 ンヒ	分野横断的能力(リテラシー・コンピテンシー)に関する自分の特性の経年的変化を把握することができない。						
評価項目⑤リーダーシップの理解 と実践			「セルフ・リーダーシップ」、「 ! チーム・リーダーシップ」を理解 し、「セルフ・リーダーシップ」 を発揮できる。		「セルフ・リー/ チーム・リーダー できる。	「セルフ・リーダーシップ」、 チーム・リーダーシップ」を理解できる。		「セルフ・リーダーシップ」、「 チーム・リーダーシップ」を理解 できない。						
学科の到	達日標頂	目との関					I							
<u></u>		CH C+7/A	21/1											
概要		そのため 組み合わ 必要科目 習を の講座	かには、アカデミック せて利活用する能力 現力・協働力・コミ は現代社会が抱える 。また、グローバル 講やディスカッショ	フスキルやジェネ! フ、ものごとを分析 シュニケーション ラ具体的な課題を是 シエンジニアに求& コンも実施する。	リックスキルに関す fして論理的・批判 gが求められる。こ をなとして、複数の られる国際的・共	る知識を有し 的に考察する れらの能力を 分野の知識を 生的な視点や	でいる必要 能力、解を 開発し実践 統合し具体 態度を身に	解を探求する力を育成する。 があり、また、必要な情報を 得る過程や解を共有する際に 的に定着させていくために、 的な解決策を提案する体験学 着けるため、外国語を用いて						
授業の進め	方・方法	記入する	振り返りシートの記	1月1日のクラハノ 1入内容により評値	ica」に表述され iする。また、授業	中の取り組み	状況を評価	習内容の振り返り」の時間に に加える場合もある。						
注意点		_	の主体的な活動を前	対とした科目です	「。難しく考えずに	積極的な授業	参加をお願	いします。						
授業の属	性・履修	上の区分	<b>)</b>											
☑ アクテ.	ィブラーニ	ング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	5		実務経験のある教員による授業						
授業計画	ļ	ı	T											
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標								
		1週	ガイダンス					(かを理解する・役割分担決める。						
		2週	  科学的思考とは何か	),		いくつかの題材を用いて、先入観や個人的体験、誤 た分析に基づかず、客観的で再現可能な事実によっ 論理を組み立てていくことを学ぶ								
		3週	情報収集・文献探索		学内外の文献探索方法など情報の収集方法を学ぶ									
		4週	情報分析方法	報分析方法			文献・資料・グラフ・表から情報を読み解く方法を学ぶ。さらに情報を批判的、多角的に分析する方法を学ぶ。							
		5週	学校生活の反省と今	校生活の反省と今後の生活設計 1			学校生活の半ばで勉学面や生活面などを振り返り、自 分の課題を整理し、自己推薦書を書けるように今後の 生活設計を描く							
ŀ						生活設計を招	# \							
		6週	学校生活の反省と会	今後の生活設計 2		学校生活の当	上ばでの総括 全度でグル	舌を踏まえた今後の生活設計を 一プで発表し、計画性や表現力 面する						

		8週	SDG 機関:	s (Sustainab 主催プロジェク	ole Development ( 7トへの取り組み 1		コンテストの趣旨 設定とスケジュール		て説明する。テーマ		
		9週	SDG s (Sustainable Development Goals) など外部 機関主催プロジェクトへの取り組み 2								
		10週	SDGs (Sustainable Development Goals) など外部機関主催プロジェクトへの取り組み3 調査活動とグループ討議。課題解決						央に向けた計画設計		
		11週	SDG 機関:	s (Sustainab 主催プロジェク	ole Development ( フトへの取り組み4	 プ討議					
		12週	SDG 機関:	SDG s (Sustainable Development Goals)など外部 機関主催プロジェクトへの取り組み 5							
	4thQ	13週		SDG s (Sustainable Development Goals)など外部 機関主催プロジェクトへの取り組み 6							
		14週	SDG s (Sustainable Development Goals) など外部機関主催プロジェクトへの取り組み 7 作品発表とグループ活動及び個人の活動の評価を								
		15週	学習内容の振り返り				実践Ⅱを振り返り、相互評価・自己評価を通じて、課 題発見能力を養う。				
		16週	学習内容の振り返り(成果発表・相互評価)				本時までの学習内容をまとめ、自分の取り組みを振り返る。 4年生での学習内容をあらかじめ知っておく。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標											
分類     分野				学習内容	学習内容の到達目標	<b></b>	到達レベル 授業週				
評価割合											
		試験	発	表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割合		0	20	)	20	20	40	0	100		
基礎的能力		0	20	)	20	20	40	0	100		
専門的能力 0		0	0		0	0	0	0	0		
分野横断的能力		0			0	0	0	0	0		